

## 第2回三次市まち・ひと・しごと創生市民会議 会議録

- 1 日 時 令和2年7月1日(水)  
開会：15時 閉会：17時10分
- 2 会 場 三次市福祉保健センター4階ふれあいホール
- 3 委員等 <出席委員> 17人

氏名	団体名等	職名等
<b>【副会長】</b> 佐藤 明寛	三次商工会議所	会頭
林 昭三	三次広域商工会	会長
鷺尾 操	三次農業協同組合	代表理事専務
政森 進	一般社団法人三次市観光協会	会長
庄司 俊介	国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所	所長
<b>【会長】</b> 伊藤 敏安	広島修道大学国際コミュニティ学部	教授
田中 貴宏	広島大学大学院先進理工系科学研究科	教授
西本 寮子	県立広島大学地域創生学部地域創生学科	教授
稗田 貴章	三次金融協議会幹事	(株)広島銀行十日市支店長
原田 延明	連合広島備北地域協議会	副議長
榎原 祐美	Lupine (カッペマ編集事務所)	代表
中川 哲和	三次市住民自治組織連合会	副会長
藤田 三津恵	カフェクラスメイト	オーナー
貞近 景子	三次市保育所保護者会連合会	会長
石橋 太詞	三次市PTA連合会	会長
麓 知子	社会福祉法人三次市社会福祉協議会	理事
島田 真由美	国際ソロプチミスト三次	

<欠席委員> 3人

#### 4 職員等 <事務局> 3人

氏名	部署名	職名
宮脇 有子	三次市経営企画部	部長
渡部 真二	三次市経営企画部企画調整課	課長
山口 直行	三次市経営企画部企画調整課企画調整係	係長

<傍聴者> 4人

#### 5 議事

- (1) 三次市人口ビジョン・総合戦略概要について
- (2) 三次市人口ビジョン（改訂版）（案）について
- (3) 【第1期】三次市まち・ひと・しごと創生総合戦略効果検証について
- (4) 【第2期】三次市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子（素案）について
- (5) その他

#### 1. 開会

（事務局）

それでは、ご案内の時間となりましたので、ただいまから、三次市まち・ひと・しごと創生市民会議を開催いたします。改めまして、本日はご多忙のところ、皆さま、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

まず、この会議の会長および副会長の選任についてです。5月1日、または、7日にいたしましたメールおよび郵送での資料送付の中で、会長および副会長の選任を書面で実施しましたところ、どなたからもご異議がありませんでしたので、会長を伊藤敏安様、副会長を佐藤明寛様と決定させていただきましたのでご報告します。事前に、決定させていただいたことで、本日まで、市民会議について協議を進めることができました。ありがとうございました。

#### 2. 委員紹介

（事務局）

それでは、委員紹介をさせていただきます。私から、委員にご就任いただきました皆さまのお名前をご紹介します。

<委員紹介（略）>

#### 3. あいさつ

（事務局）

それでは続きまして、三次市長、福岡誠志からごあいさつをさせていただきます。

（福岡市長）

皆さん、改めまして、こんにちは。三次市長の福岡誠志でございます。本日は、伊藤会

長をはじめ、各種団体の代表者の皆さまには、お忙しい中、三次市まち・ひと・しごと創生市民会議にご参加をいただきまして、ありがとうございます。こうして、フェース・トゥ・フェースで会議をする機会が、なかなか今まで取れなくて、これまではビデオメッセージであるとか、あるいは、リモートというかたちで情報交換等をさせていただいておりましたが、やはり、こうして、皆さん方の空気感、温度を感じながらの会議というものは、ここ数カ月間できませんでしたので、こうした会議を本日開催できることに對しまして、心から感謝を申し上げたいと思います。

今般の新型コロナウイルス感染症によりまして、この三次市もたくさんの感染者が確認されましたが、今日まで約二カ月間は感染者が確認されておりません。この間、市民の皆さんのさまざまな取組、ソーシャルディスタンス、あるいは、手洗い、うがい、そういった徹底の中で、今日を迎えさせていただいております。市民の皆さん、事業者の皆さん、そして、最先端で頑張っている、医療関係者、介護関係者の皆さんに敬意と感謝を申し上げたいと思います。

しかしながら、この新型コロナウイルス感染症は終息したわけではありません。本日も広島市で1人の感染者が確認をされました。やはり、これからというのは、ウィズコロナ、そして、アフターコロナと、そういったところがキーワードになって、さまざまなことが進められていく状況であろうと思います。

5月のビデオメッセージでも申し上げさせていただきましたけれども、この総合戦略については、今後の三次市の将来、20年後、40年後を見据えて、さまざまなことにチャレンジしていく、ビジョンを描いていくというものであります。新型コロナウイルス感染症感染拡大によって、都市部に住んで働くことが、いかに大きなリスクがあるかといったことが、今般、証明をされましたし、人口の多いところに居なくても仕事ができるということが証明をされたところでもあります。そういう意味では、地方都市である三次にとっても、大きな転換期を迎えております。この時期だからこそ、アフターコロナに向けて、この会議で皆さんから意見を出していただき、新たな地域づくりを創造していきたいと感じております。

これから、ICTであるとか、IoT、そういったデジタル技術をいかに駆使して、地域社会を便利で豊かなものにしていくか。今回の新型コロナウイルス感染症におきまして、この日本がどれだけデジタル化が遅れているかということが、よく理解できたと感じております。やはり、そういったものを必須条件として活用して、今後の三次の将来のあり方を模索していく必要があると感じています。

いずれにしても、最終的には、人がどのように動いて、どのように、このまちをつくっていくかです。持続可能な三次を構築するために、ぜひとも、皆さんの力を貸してください。そして、今般の新型コロナウイルス感染症が収束することを、心からご祈念を申し上げまして、あいさつとさせていただきます。どうぞ、よろしく申し上げます。

(事務局)

福岡市長、ありがとうございました。なお、市長はここで退席をさせていただきます。

#### 4. 事務局紹介

(事務局)

続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。

<事務局紹介(略)>

## 5. 議事

(事務局)

それでは、本日の配付資料の確認をさせていただければと思います。すでに5月に配布させていただいている資料が、【資料3～6】でございます。また、そのあと、【資料3(追加)】【資料4(追加)】【資料7-1】【資料7-2】を追加で事前にお配りさせていただいております。それから、本日、【資料6(追加)】を新たに配布しています。

ただ今の出席委員数は17人です。過半数を超えて定足数に達しておりますので、議事に入らせていただきます。それでは、ここからの進行は伊藤会長よろしくお願ひします。

### (1) 三次市人口ビジョン・総合戦略概要について

(伊藤会長)

限られた時間で皆さま方からいろいろと活発なご意見をお伺いしながら、魅力あるビジョン、総合戦略ができていければと思います。ご協力をよろしくお願ひいたします。

それでは、議事次第に沿って、進めていきたいと思ひます。本日の会議の進め方ですけれども、先ほどもご紹介がありましたように、事前に資料が、5月の時点で配布されておりますので、その資料については、すでに見ていただいていると思ひます。よって、最初から最後まで資料の説明は省略させていただきたいと思ひます。

そこで、本日の進め方ですが、追加の配布資料について、重点的に説明をしていただきます。残りの時間で、意見交換、質問等をしたたいと思ひます。よろしいでしょうか。

それでは、三次市人口ビジョン・総合戦略概要について、事務局の説明をお願いします。

(事務局)

資料3につきましては、このたびの戦略策定にあたり、みなさまに全体像をつかんでいただくのに、少しでも分かりやすくできないかと思ひ、作成した資料です。

第1期の三次市の総合戦略は、平成27年10月に策定しましたが、このたびは5年経過するというところで、第2期の三次市の総合戦略を策定するものです。委員の皆さまには、総合戦略策定にあたり、率直なご意見をいただければと思ひます。策定スケジュールについては、昨今の社会情勢もあり、ご参集いただいて皆さまから意見をいただくことができず、スケジュールが大幅に遅れています。

人口ビジョンは、まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定にあたり、人口に関する現状把握と分析を行い、めざす将来の方向性や展望を明らかにするために策定するもので、そのもととなる主な基礎データは国勢調査です。このたび作成する人口ビジョンは「改訂版」です。したいがまま、人口ビジョンのこのたびの作成目的は主には時点修正です。平成27年の作成時は平成22年国勢調査がベースでしたが、改訂版は平成27年の国勢調査のデータに更新をするものです。

なお、この概要資料の中に、国が昨年12月に閣議決定した第2期の総合戦略の中身が

不足しているということで、追加でこのたび、「資料3（追加）」をご用意しています。

三次市人口ビジョン・総合戦略概要についての説明は以上です。

（伊藤会長）

ありがとうございます。人口ビジョンそのものは次の議題になっていますが、資料3、資料3（追加）について質問等がありましたら、挙手をお願いします。総合戦略の考え方ということですので、抽象的かもしれませんが、検討すべき項目が入っているかどうか、それから去年の12月に発表にされた国の指針が果たして三次市に当てはまるかどうか、あるいは、三次市に適用する場合に、こういった視点に注意をするべきかなど、お気づきの点や質問があればお願いします。

（委員）

KPI（重要業績評価指標）という数値目標は何を基準にしているのでしょうか。

（事務局）

KPIは、目指すゴールに向かって、どれだけ進んでいるかを知るための指標です。あとの効果検証のところで、詳しく見ていただきますが、第1期の総合戦略では29個のKPIを定めています。それぞれの取組に対して、こういった目標が成果を評価するための数値としてふさわしいかということを考えるわけですが、こういった数字が欲しいと考えても数値化できるとは限らないので、何を数値目標として設定するかは大変難しい作業になります。第1期で設定したものを、第2期においても引き継ぐ場合もあるとは思いますが、今から作り上げていく中で、内容や個数は変化をしていくと思います。

（委員）

三次市は光ファイバーが隅々まで敷設されていて、テレワークなども可能であり、自然、生活環境、移住に役立つ住宅対策改修への助成などが良いことも含めてしっかり情報発信していくと、三次市は人口増加の希望があると思います。光ファイバーや工業団地など、そういったところからも人口増加につながる希望がつかめるのではないかと思います。

（伊藤会長）

第2期の総合戦略のなかに生かすべき視点ということだと思えます。

（佐藤副会長）

たくさんの理想があると思います。経済界からも、こういうこともしていただきたい、こういうことも三次のためにいいのではないかとのご意見がありますが、まずもって、これに関しては、予算であったり、お金であったり、そういったことは委員としては頭の中に入れなくてもいいのかどうか質問です。

（事務局）

予算、財政的な面は、最終的には重要な判断材料にはなると思いますが、この市民会議では、まず、どういうことをしたらいいか、こういうことが強みじゃないかとか、予算の面からは離れていただいて、委員の皆さまには自由にご意見をいただければと思います。市民会議などでいただいたご意見を受けて、最終的に、導入コスト、ランニングコストも含めて考え、お金の面で実現できない、やはり盛り込めないという結論になるものもあるとは思いますが、この市民会議でその点を気にすると、委員の皆さまからなかなかアイデアが生まれなくなってしまうと考えています。

(佐藤副会長)  
わかりました。

## (2) 三次市人口ビジョン（改訂版）（案）について

(伊藤会長)

それでは三次市人口ビジョン（改訂版）（案）について事務局から説明をお願いします。  
(事務局)

それでは、資料4と資料4（追加）について、おさらいを含めご説明します。

「人口動向分析」「将来人口の推計と分析」「人口減少・高齢化の影響と市民等の意識」については、当初の人口ビジョンから主に時点修正を行い更新しています。一部新規に入れた統計データもあります。こちらについては、統計元データがない場合は対応できないこともあります。ご質問はもちろん、修正が必要な箇所や人口を読み解くうえでこのようなデータが必要ではないか、というご意見があればいただければと思います。

そして、「人口の将来展望」では、ありたい姿、理想の姿を描いていますが、そこでは、まず、3つの「めざすべき今後の方向性」を示しています。具体的には、方向性1が出生数の確保（人口自然増）、方向性2が転入者の増加（人口社会増）、方向性3が転出者の減少（人口社会減の抑制）についての記載になります。2030年に人口を5万人キープすることが最終目標ではありません。10年後に人口を5万人キープすることで、最後のページにありますように、2060年になっても（40年先）になっても、平成27年の国勢調査の時と同様に、一人の高齢者を支える生産年齢人口の割合1.5人をキープして、人口構成のバランスが現在の状況に保たれた三次市とすることが、人口の面で実現できたら最高の姿だとして、めざすものです。

こちらの人口ビジョンも追加資料があり、それが「資料4（追加）」です。

1ページを見ていただきますと、朱書きで文言を加えています。新型コロナウイルス感染症に関する記述です。

短期的には、新型コロナウイルス感染症は、例えばですが、結婚式ができなかったり、失業により結婚を控えたり、出産を控えたりすることで、出生数に影響が出ると思いますし、人口密度の高い都市部から人口密度の低い地方への人の移動が起きることで、転入者が増えたり、都市部への転出者も減るといった現象が起こると思っています。しかし、何より、現時点で感染症リスクに対して全く見通しが立たない中で、人口推計・展望に感染症リスクを加味するデータ・手法などありませんので、2060年までという中長期的な視点で展望するこの人口ビジョンは、感染症リスクは加味せず改訂したいと考えています。なお、新型コロナウイルス感染症に伴い、短期的に生まれる影響については、2060年を見据えてこれから5年間にすることを描く総合戦略の中には、できる範囲で反映をしていきたいと思っています。

次に、「18ページの次のページ」と書いてあるページをご覧ください。前のページで「通勤・通学者の流入・流出数」をまとめていますが、その中の通勤者の流入・流出数について、住所別ではなく、産業大分類別にまとめた資料です。三次市は流入人口が多い、いわゆる昼間人口がプラスのまちです。流入者は三次市に住んでいない人ですので、一番身近

な「関係人口」ということになります。働くだけではなく、消費も三次市内でされ、さらには市内の地域とも関わりを持たれている、市内のスポーツ・文化団体に加入されているかもしれません。この方々へアプローチするに当たり、どこから来ているかという情報以外に、どのような仕事に就いているかの情報も持つておくことは有効ではないかと考え追加しています。

次に、41ページと書かれているページをご覧ください。ここは、結論に変化はなく、有効求人倍率について昨今の状況を踏まえた言葉の追加や修正をしているものです。

最後に、53ページと書かれているページをご覧ください。ここは、先ほど「人口の将来展望」でご説明したことを、追記をしています。

三次市人口ビジョン（改訂版）（案）についての説明は以上です。

（伊藤会長）

人口ビジョンの考え方の柱そのものが、総合戦略の基本的な方向と非常に絡んでいることがご理解いただけたかと思います。三次市は、今説明がありましたように、現状を放置しておくと、2060年には生産年齢人口と高齢者人口が1対1の割合になる。もし、人口ビジョンを達成できれば、現状の水準が維持できるということで、非常に重要というのが一点目です。それから、もう一点は、三次の主力産業は、製造、運輸、卸・小売が、これが中心産業となって、周辺からかなりの昼間人口を支えています。三次市の昼間人口の大きさ、それから、商業機能の一人あたりの商業販売額は、西日本の内陸都市ではトップクラスと言っていると思いますけれども、中心となっている産業である、製造、運輸、卸・小売が、もう一方では減少数も非常に多いということで、この雇用の受け皿を維持しつつ、産業における雇用の受け皿を新たにつくっていくことによって、子育て支援、あるいは、高齢者の方の生きがい、健康づくりにつながっていければと思います。先ほどの議題1の総合戦略の考え方と合わせて、いろいろなご意見、質問等をいただければと思います。また、これを達成するためのアイデアもいただけたらと思います。

（委員）

これまでの資料に特に異論はありません。資料4の「人口の将来展望」のめざすべき今後の方向性の1では、「結婚・出産・子育ての希望を応援します」とあります。非常に人口増のためには、大きな要因だと思えます。私は、今回の新型コロナウイルス感染症の影響により、経済、流通が止まったりしていくと、やはり、食料というところに行き着いたように思います。日本の食料自給率は37%と言われ、海外にずいぶん依存しています。三次市のようにお米をつくったり、野菜をつくったりしている地域というのは、本当に安心できる最高の地域で、結婚というところにも結びつくと思えます。人口を増やすということからすると、最近、男性、女性の出会いというのが少ないのではないかと思います。そこで、私はお世話する人がきちんといれば、ずいぶん変わってくると痛切に思います。そういう出会いをつくってあげるという突っ込んだ取組をする人を増やしていくということも大事なことだと思えます。方向性2のところでは、「働きやすい環境づくり」とありますが、これもまた、新型コロナウイルス感染症の影響で、テレビ電話のシステム構築、機器の導入を補助するとか、そういったことも大切な取り組みになると思えます。方向性3のところでは、「安全・安心で住みやすいまち」づくりとされていますが、やはり、通販を含

めた買い物、配達の体制であるとか、医療や福祉などといったことに積極的に取り組むことも、人口増につながる大事な要素になると思って読みました。

(委員)

今、なかなか、子どもさんが欲しくてもできないという家庭がけっこうあるようです。予算的に治療を受けたくても受けられないという声をよく聞きます。現在、市ではいろいろと予算的にも応援され、治療することで産まれた家庭も、かなり多くなっていると聞きます。もし、できることなら、1人だけではなく2人目ぐらいまでは応援してやろうというような、地道な行政的な支援策も、これからは大事になるのではないかと思います。

もう一つは、やはり、三次市に住み続けてもらうためには、生活面も含めた受け皿が大切であり、それにも配慮していかなければならないと思います。三次広域商工会の会員の中でも、新型コロナウイルス感染症の影響で、従業員が70人ぐらいの事業所でも、お客さんが全然来られない、どうなっていくかわからないという状況も今は生じているわけで、手厚くまでは無理でも、何とか従業員を確保・維持できるようなことを考えてほしいです。

(委員)

人口ビジョンで、2030年に人口5万人堅持と掲げられていますが、先ほどのお話だと、5万人という総人口そのものにそんなに意味はなく、2060年時点の人口構成のバランスというところに主眼があるという認識でよろしいでしょうか。

(事務局)

はい。人口ビジョンでは、人口5万人堅持と書かせていただいておりますが、おっしゃっていただいたとおりです。国も2060年で、総人口約1億人堅持を掲げており、三次市でも、2060年がどういった状態が理想の姿かということを考えています。どうしても人口減少というのは、日本全体、ゆくゆくは世界の人口も減少に転じるという中で、三次市の人口が今後も減っていく流れは変えられないですけれども、最終的に、私どもが人口について考えていかななくてはいけないポイントは、人口がどのようになっても、バランスが保たれているということだと考えています。このままいけば、国の総人口も2110年で5,000万人程度と推計されています。それも「大正元年ぐらいの人口に戻るだけだから、大丈夫じゃないか」という話もありますが、当時は非常に高齢化率が5%もない非常に低い状況で、子どももいるし、働く人もいるし、お年寄りもいるという、むしろ、支える人のほうが多いという状況にありました。国全体でも昔は100人中で5人が高齢者だったものが、今後は、100人中40人が高齢者という世の中になっていきます。よって、人口は減りますが構成バランスが取れているというところを重点的に考えていきたいと思っております。その途中段階のところ、多くの自治体でも2030年とか、2040年の状態を目安として示していますが、三次市につきましては、2030年が5万人になるということで、目安としてわかりやすいと思い、お示ししています。

(委員)

やはり、人口のバランスが大事だということでもいいですか。

(事務局)

はい。

(委員)

現在の人口ビジョンの案では、5万人という数字が大事に見えてしまうので、誤解のないように書き方を修正する必要があるのではないかと思います。

(伊藤会長)

確かに、「2030年」「5万」という総数だけにとらわれてしまっていますが、実は人口推計にあたっては人口構成バランスを考慮しているということで、あくまで2030年に5万人というのは途中経過で、人口構成のバランスを見ながら積みあげた数字だということがわかるようにしていただければと思います。

(委員)

資料4の18ページまでの資料というのは、これまでの総合戦略のなかに盛り込まれていた要素ということでよろしいでしょうか。特に加えられた項目はないでしょうか。

(事務局)

時点修正以外に、新たに盛り込んだデータもあります。例えば、15から49歳までの女性の人口の推移や年齢別有配偶者率の推移、理由別転入・転出割合を新たに盛り込んでいます。理由別転入・転出割合は、三次市の単位で出したかったのですが、広島県の単位でしかデータがありませんでした。しかし、広島県の単位と本市の単位でも、傾向に大きな差はないと思いますので、資料として追加をさせていただいています。このようにデータを加えることが、人口について考える上での参考になると考え、追加をしています。

(委員)

「人口の将来展望」のめざすべき今後の方向性について、特に私は方向性1「結婚・出産・子育ての希望を応援」のところが気になります。例えば、移住してきた方が、そのまま定住してくださるような住みよいまちにしていく、子育てがしやすいまちだということも全面に出していくと思いますが、そういうときに結婚・出産という部分が妙に強調されている印象を与えなければいいと思っています。いろいろな立場の方が三次は暮らしやすい場所だということを理解してもらえることを願っています。このことは、人口ビジョンではなく、別のところででもまとめてもらえたらよろしいかと思います。誤解を招くこともあるかと思い発言しました。

(委員)

資料を見ると、平成7年、12年、15年がわずかですけど、転入者数が転出者数を上回っています。この要因は何かつかんでいますか。そこにも、ヒントがある気がしました。

(事務局)

この要因は、分析できていません。

(伊藤会長)

これは、また、後日調べていただければと思います。大型の土木公共事業とか、それから、工場の設備入れ替えのときに外から来た人などが、一定期間滞在することもあり得るかと思っています。

### (3) 【第1期】三次市まち・ひと・しごと創生総合戦略効果検証について

(伊藤会長)

続きまして、第1期三次市まち・ひと・しごと創生総合戦略効果検証について事務局か

ら説明をお願いします。

(事務局)

それでは、資料5についてご説明します。【第1期】の総合戦略の効果検証作業は昨年度中に完了しています。この資料は、どのような数値目標とKPIを掲げて、どのような事業に取り組んできたのか、効果検証の概要を見ていただける資料として作成したものです。

成果を出すことはもちろん、成果を測るための指標として、どのようなKPIを設定すべきかも含め、非常に難しさを感じています。

なお、今まで行ってきた様々な事業は、目的を達成するなどして終了するもの以外は、概ね第2期でも継続的に取り組んでいきたいと思っています。

第1期三次市まち・ひと・しごと創生総合戦略効果検証についての説明は以上です。

(伊藤会長)

先ほどの委員からのご質問にも関連していますが、ご理解いただけましたでしょうか。地方創生のメリットの1つは、こういった数値目標を明確にして、みんなで評価検討しながら、それを次の施策プランにフィードバックさせなさいというかたちがつくられたことにあります。これは大きな成果だと思います。ただし、KPIのKはkey、鍵となる指標ということですが、なかなか民間の場合と違って、行政の場合には立てにくいところもあります。例えば、いわゆる婚活事業ですが、目標が参加者人数になっています。実際には、本当にそれで結婚できたかどうか重要です。このような件数、量という単なるアウトプットではなくて、本当に実質的な成果があったかどうか、アウトカムまで議論しなさいということですが、なかなか「集計できる指標」「集計できない指標」があるものですから、そういう点に苦労しながら、事務局では全体として75～76%できたという評価だろうと思います。せっかく目に見える資料がつくられていますので、委員の皆さんはもちろん市民全体できちんとチェックしながら、うまくいっているかどうかをみんなで管理していかなければならないと思います。

#### (4) 【第2期】三次市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子(素案)について

(伊藤会長)

それでは、一番重要な議題4、【第2期】三次市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子(素案)について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

それでは、ここでは、骨子(素案)のご説明と、市民ワークショップの開催状況についてご説明します。

最初に、「資料6(追加)」をご覧ください。「資料6」として骨子(素案)をまとめていましたが、これでは分かりにくいという声をいただき、急ぎよ作成をしたものです。こちらをご覧くださいの上で、「資料6」を見ていただきたいと思います。

三次市の現状と課題を4つのくりに分けて示しています。そして、それに対する基本目標の素案を示すことで、骨子(素案)に至った経緯を少しでもイメージしやすくならないか、本日ご意見いただくうえでも有効ではないかと考えて作りました。

基本目標1は「しごとの創生」に該当します。基本目標2と3は「ひとの創生」です。

第1期の総合戦略では、「ひとの創生」に対して1つの基本目標を設けていましたが、国の第2期の総合戦略を勘案して、「ひとの創生」に対して2つの基本目標とすることが、本市の第2期の総合戦略の大きな特徴となります。基本目標4は「まちの創生」です。第1期の内容を引継ぎながら、災害、医療・福祉、公共交通と拠点性について主に扱っていきたいと思っています。「まちの創生」は幅広いくくりなので、取組を絞って重点化する必要があると考えています。「しごとの創生」「ひとの創生」で扱わないことを全て入れているのは戦略ではなく、総合計画になってしまいますので、注意していきたいと思っています。

なお、人口ビジョンのところでも申し上げましたが、新型コロナウイルス感染症に伴い、短期的に生まれる影響については、これから5年間にすることを描く総合戦略の基本目標の中の取組においては、できる範囲で反映していきたいと思っています。また、例えば、「しごとの創生」では、経済が大きく低迷してしまっています。企業誘致をするも、企業の業績は悪化していることが多い状況にあると思います。KPIの目標値や基準値をどこに定めるのか、難しい作業になると思っています。「ひとの創生」では、都市部から田舎への人の流れが今まで以上に起きたり、これまで、とにかくみんな集まろうつながろうと言ってきたのに、一定の距離を保つ必要がでてきたりしています。観光も密を作ってはいけない中でどのようにして稼ぐのか社会全体が模索中です。「まちの創生」でも、高齢者のサロンや公共交通も密にできないなど課題があります。

次に、市民ワークショップの状況報告をします。市民ワークショップは2回開催し、この度の「資料7-1」と「資料7-2」としてまとめたものは、第1回目の集計結果です。

市民ワークショップは、当初は4月15日と5月22日に公募参加者を含む28人の方に集まっていたり開催する予定にしていたのですが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から書面開催に変更をして、4月17日から6月29日まで2か月以上の期間をかけて実施しました。初めて書面開催をしましたが、決まった日に参集する形と違い相当な期間がかかることが分かりました。しかし、反面、書面開催について、参加者からはじっくり考えてアイデアを出すことができ、しっかりまとめてもらえているという、好意的なご意見もありました。市民ワークショップでは、三次の「強み」「弱み」について考えていただき、まち・ひと・しごとの創生において、三次市が取り組むべきアイデアをいただきました。「資料7-2」をご覧くださいと思います。市民ワークショップの皆さんのご意見を、クロス集計した図です。三次の強み・弱みなど一目見て分かるものとなっています。市民ワークショップでいただいたご意見につきましては、戦略を作るうえでの参考に今後させていただきたいと考えています。当然すべて盛り込めるわけではありません。またすぐにできるものでもありませんが、いただいた貴重なご意見は、積極的に活用させていただければと思っています。

【第2期】三次市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子（素案）についての説明は以上です。

（伊藤会長）

「資料6（追加）」で、第2期の総合戦略に向けての基本的な動向、課題が出ています。それから、この基本、基礎というのは、今日の議論の中でも出てきたと思いますし、最後に紹介いただいた、市民ワークショップの集計結果の中にも出てきていると思います。骨

子（素案）が、基本的な考え方、方向として適切かどうかを、議論したいと思います。

（委員）

「資料7-2」の中に、私はとてもいいヒントが隠れていると思いました。相次ぐ災害と今回の予期せぬコロナの騒動で、三次市としては本当に学ばれたことがたくさんあったと思います。これをこれからどんどん強みにしていけるといいますし、より強みに転嫁できる要素がここにはあると思います。例えば、交通の問題は、すぐに解決できる問題ではないけれども、どのくらいの規模の都市まで日常的に移動できるのかといったプラスを、よりプラスにしていくようなアピールをしていけば、今、強みと考えられているところは、もっと強みとしていけるといいます。また、ICTに関連して、情報通信ネットワークが整備され基盤はできていると、私も三次に関して思っているのですが、強みでも弱みでもない真ん中辺りになっています。そこの部分をどんどんアピールしていけば、より住みよいまちになっていくと思います。三次のアピールポイントは、今日お示しいただいたさまざまな資料から、非常にはっきり見えてきたように思います。

（伊藤会長）

確かに、「資料7-2」は、サンプル数は少ないですが、特徴がよく表れていると思います。移住に対する関心が少ないというところは、そもそも参加者が住んでいる人ですから、あまり関心がない、または、なくて当然という面もあると思います。

（委員）

資料6の「まちの創生」安心と持続可能性のところでは、ICTの話が入っていますが、追加資料では、そのような話がないと思ったのですが、その点について、資料の関係性がどのようになっているのかを、確認させていただきたいと思います。

（事務局）

確かに資料6（追加）では、4つの項目、基本目標について書いており、資料6に書いてあるような各基本目標に取り組むうえでの横断的に手段である、未来技術（ICT）の活用や地域内外の多様な主体の活躍ところは、記載していません。しかし、追加資料には記載していないだけで、そのような手段を活用しながら、まち・ひと・しごとの創生に取り組んでいく考え方には変わりはありません。

（委員）

この資料6と資料6（追加）の資料としての関係性がわかるようになっているといいとは思いました。こっちにあって、こっちにないという点が整理されるといいと思います。

あと、もう一つですけれども、人口のことを考えたときに、新しく転入していただくことも重要なことの一つだと思うのですが、一方で、今お住まいの皆さんが三次に、魅力や誇り、楽しさなどを感じて、ずっと住み続けていただくということも、一方では大事だと思いますが、そのような視点はどこかに入っているのでしょうか。

（事務局）

特に、住んでいる方に住み続けていただくことに対する取組としては、「まちの創生」、基本目標4のところ、関係が深くなっています。「しごとの創生」「ひとの創生」にもそれに関係する内容はありますが、「まちの創生」が一番多いと思います。

（委員）

「まちの創生」を見ますと、安全性が全面に出ていると思います。そうすると、住んでいて日常生活が楽しいとか、魅力があるとか、そういう部分があったほうがいいのではないかと思います。意見させていただきました。

(伊藤会長)

これらの資料は、まだ、たたき台ということですので、今のようなご意見を踏まえながら骨格に肉をつけていければいいと思います。

(委員)

この総合戦略骨子(素案)ですけれども、先ほど言われたように、ここに住んでいる人が住んでよかったと思えることを、第一に考えないといけません。そのためには、域内経済循環が大事となります。ある人が「F E C」について言われていました。FはF o o d(食べるもの)。地産地消とよく言われますけど、三次でできたものを、三次の人が食べるような自給自足の観点・仕組みがまず大事である。それから、EはE n e r g y(エネルギー)です。岡山県では、間伐材で発電所をつくったところがあったと思います。太陽光でも風力でも水力でもいいのですが、自分たちのまちでも工夫によって少しずつエネルギーに取り組む観点がいます。それからCはC a r eと言って、医療・介護などと子育ても含めたもので、自分たちで助け合うことが地域である程度循環していけば、お金をかけても、少ないお金でも地元の人に落ちるわけで、市外に出ていくお金をできるだけ少なくしていける。つまり、自分たちで自分たちの生活の向上をしようとする取組です。それで楽しいなということになれば、市外から見たときに、非常に魅力的な地域になると思います。この観点も含めた計画にしていきたいと思います。S D G sがありますけど、国連において継続的な世界をつくろうと目標を立ててやっているの、これとどう関連づけることで、自分たちの地域は継続的にいい地域になるんだと分かるまち・ひと・しごとの戦略をつくってもらいたいと思います。

(委員)

防災という視点で総合戦略を見ています。市民ワークショップにおいて、災害に対する備えが充実していると思う人が非常に少ない結果が出ており、非常にショッキングでした。三次市におけるハード整備は、昭和47年に大きな災害があつて以来、ずっとやってきており、地道に進んでいると思っています。しかし、平成30年7月豪雨でも大きな被害が出たこともあつて、その記憶が新しい中でこの結果になっている部分もあると思います。

住んでいる人が住み続けたいと思うかどうかという視点で考えると、やはり、防災上安心して暮らせるかどうかは、大きなポイントの一つであると思っています。これは、ハード整備の話だけではなくて、I C Tの活用などによって情報をいかに早く伝えるか、それによって避難をいかに促すかとか、そういったソフト対策も含めて、いろいろな視点で安心して暮らせる、災害に強いまちづくりを考えることが必要であると思います。また、この項目にK P Iを設定されるのであれば、住んでいる人が住み続けたいと思うかどうかという視点での指標もあってもいいと思いました。

(委員)

三次市は子育てしやすいまちとして、妊娠・出産・子育て相談支援センターネウボラみよしもあります。合計特殊出生率を2.07に上げるためには、やはり、出産、子育て

のもう一つ前の段階の結婚のところに、もう少し力が入れられないかと思っています。具体的に、第一子、第二子、第三子という状況に応じていろいろな支援ができれば、本当に楽しいし、とても三次は住みやすい、環境のいいところだということで、若い人が住んでくださり、そして、三次で結婚というつながりができて、合計特殊出生率アップにつながっていけばいいと思います。

(委員)

政策を聞くときに、「女性活躍」という言葉をすごく耳にするのですが、若干、私は違和感を覚えています。女性は子育てもして仕事もして、両方頑張れ応援しているよと、すごくたくさん応援をいただいています。しかし、実際には、女性の考え方は一人一人違って多様であり、私は子育て・家庭に専念したい、働きたくはないと宣言している女性もいます。そういう方も含めて、女性は頑張れと言われていたような気がするため、違和感があります。反対に、男性の中でも応援してほしい、僕にも何か手助けをしてほしい、活躍の場を与えてもらいたい、と取り残されている男性もいるのではないかと思います。家庭に入りたい男性もいると思います。そういう多様な時代に足を踏み入れて、多様な世界にどんどん進んでいる中で、もうそろそろ男性、女性という枠組みを、徐々にでも緩めていくというか、性別にとらわれず、一人一人のよいところ、活躍したいという思いをサポートしていくという考え方で、まちづくり、未来づくりができていけば、もっといい社会、いい未来につながるのではないかなと思っています。

## (5) その他

(伊藤会長)

その他、今後のスケジュールなど、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

今後のスケジュールですが、皆さまからご意見をいただきながら、第2期の総合戦略を描いていく中で、本日新たなスタートが切れたばかりですので、現時点では、明確なゴールまでは描けていません。非常に大ざっぱな言い方ですけれども、今年の秋までには、策定を完了していきたいと思っていますので、誠に申し訳ございませんが、引き続き、委員の皆さま方にはご協力をよろしくお願いいたします。

なお、今回の市民会議では、今日いただいたご意見、市民ワークショップの内容も踏まえながら、より明確なかたちに戦略を作り上げてお示ししていきたいと思っています。また、ご準備ができ次第、ご案内をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

あと、時間の都合もあり、本日まで出席の委員の皆さまにおかれましては、思っていたことをすべて発言できなかったことと思います。もしよろしければ、ご発言いただけなかったことがありましたら、ご意見、コメントとして、事務局に個別に送っていただければと思っています。7月8日までによろしくをお願いします。

(伊藤会長)

今日は、抽象的な内容だったのですが、貴重な、重要な意見がたくさん出てきたと思います。今日は、皆さんに全ての話題を振ることができませんでしたが、現在の新型コロナ

ウイルス感染症問題について、総合戦略策定にあたりどのような留意点があるかという話題もあります。

最後に佐藤会頭から閉会にあたりあいさつがあると思いますので、そこで今日のまとめをしていただければと思います。それでは、事務局にマイクをお返しいたします。

## 6. 閉会

(事務局)

本日は委員の皆さま方には、長時間にわたりまして、熱心にご議論いただきまして、誠にありがとうございました。時間も終了予定時刻を過ぎており、大変申し訳ございません。それでは、最後に佐藤副会長からごあいさつをいただいて終了したいと思います。

(佐藤副会長)

抽象的で雲をつかむような日本全体のことを、このテーブルの中で議論するのは、なかなか難しいと、この資料をいただいたときには思っていました。皆さまのお話を伺っていると、やはり、最終的には、住んでいる私たち一人一人が三次のことが大好きである、いろいろな方にその思いを伝えたいと思うことが、第一歩なのだと思います。一人一人がPRできるようなまちであれば、楽しいまちになる気がしました。

私は商工会議所におります。企業の方々が、子どもさんを連れて三次に来たいと言われたときには、自分の子どもの教育の場があるのかが、すごく重要なポイントになっていると思います。今日の会議の中では出ていませんが、三次は高校までの教育の場が充実していることも、どこかで頭に入れておいていただければと思います。

どの地域、どの市町も、同じことを考えています。みんな、このような会議を、どの市町も、同じようにされていると思います。しかし、医療と福祉と教育、そしてもう一つだけ、三次市のこれはどこにも負けないぞというところを、PRできれば、三次は選ばれるまちになるのではないかと思います。その一つというのは、やはり、クロスする高速道路、これはどこにもないと思います。

それから、特産物も三次にはたくさんあります。自分たちの誇れるものを、皆さんにはPRしていただきたい。そして、たくさんの人に来ていただいて、それで喜んでもらいたい。それが、三次の流入人口、定住人口が増えていくことにつながると思います。

(事務局)

それでは、皆さま、長時間にわたってありがとうございました。以上をもちまして、第2回三次市まち・ひと・しごと創生市民会議を終了いたします。